

【報告】

看護学部における新入生セミナーの活動

佐久間 佐織 山村 江美子 入江 拓 渥美 陽子 若杉 早苗
松井 謙次 篠崎 恵美子 鮫島 道和 篁 宗一

聖隷クリストファー大学看護学部学生委員会

Activities of the freshman seminar in School of Nursing, Seirei Christopher University

Saori Sakuma, Emiko Yamamura, Taku Irie, Yoko Atsumi, Sanae Wakasugi,
Kenji Matsui, Emiko Shinozaki, Michikazu Samejima, Soichi Takamura

Student Committee for School of Nursing, Seirei Christopher University

抄録

本学看護学部では、新入生が抱く入学時の不安や緊張を和らげる目的で学生スタッフ参画による「新入生セミナー」が実施されている。この新入生セミナーは150名前後の在学生スタッフが主体となって、1年間にわたり企画、運営を行う組織的活動である。この自主的な活動は新入生に対する効果だけでなく、在学生スタッフに対しても、主体的活動による達成感やリーダーシップの獲得、縦と横のつながりの形成などの効果があると考えられる。在学生スタッフの意欲的な活動は、新入生のモデルとなり、スタッフへの自主的な参加へとつながる形で10年以上継続されている。今回、本学部の新入生セミナーの活動についての概要を報告する。

キーワード：看護学部、新入生セミナー、活動の概要

はじめに

本学看護学部は1学年の学生数が約150名を超える大きな集団である。近年の大学進学率上昇に伴う学生の多様化が進むなか、計600名を超える学生に対し、個別的なサポートを実現することは易しくない。とくに新入生は生活環境の大きな変化により不安や緊張が高いことから、大学生活へ円滑に適応できるためのサポートが重要であり、各大学では新入生に対するオリエンテーションのあり方が模索されている。しかしその大半は、大学、教員側の企画、運営によるものであり、在学生が主体の実践についての報告は少ない。

本学部では、毎年4月に学内および近隣スポーツ施設において「新入生セミナー」が実施されている。この新入生セミナーは、新入生が抱く入学時の不安や緊張を和らげる目的で実施されるオリエンテーションプログラムで、2つの「セッション」から構成されている。総勢150名前後の在学生スタッフが、1年間にわたって新入生を迎えるためのプログラムを主体的に企画し、運営を行っている。

こうした本学部新入生セミナーの学生による組織的な活動は、2003年度から始まり、10年以上にわたり継続されている。今回、その取り組みについて報告する。

学生主体の新入生セミナーへの転換の経緯

2000年前後からファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development : FD) の制度化に伴い、学生は「大学のお客様」から「大学の構成員」へ、「教員が学生に〇〇を教える」から「学生が〇〇できるようになる」へ発想が

転換されるようになった。大学運営への学生の参画が時代の要請となり、本学の新生セミナーのあり方についても再定義が必要となった。学生が責任のある形で新生セミナーに参画することで、自分たちが学部を作っていくという連帯感や大学への帰属意識を高めるようになることが求められた。そこで、本学部でもそれまでの教員主体による学外研修型から学生主体の新生セミナーへの転換がなされた。

大学行事である新生セミナーに学生が主体的に参画する効果として、大学および学部に対する帰属意識の醸成、先輩後輩の縦のつながり、学生の責任感・主体性の獲得、自分たちの学部を創造するという連帯感、相互作用によってもたらされる学部の文化の醸成が期待できる。また、新入生にとっても、大学生活への不安や緊張の緩和だけでなく、温かく迎えられたという肯定的な体験と、それを次の世代に伝えていくという意識が芽生え、学部への愛着、帰属意識の醸成となる。これらの効果が教員間で期待され、2003年度より「新入生の不安と緊張を和らげる」ことを目的とした新たな新生セミナーが試行された。

当時の学生部委員の教員2名が中心となり、学生有志スタッフを募集し、肯定的な影響を他の学生らにも与えられる一体感のある学生集団を作り上げ、学生とともにセミナーの企画立案、学生組織運営における責任の明確化、教員・大学との情報共有、連絡調整が行われた。本学部では学生支援としてアドバイザー制度を実施している。学生一人ひとりにはアドバイザーとして担当教員がおり、学生はアドバイザー教員に学生生活上の心理的な悩みや進路など多岐にわたって相談、助言を受けることができる制度である。2003年度はすべてを学生に委ねるのではなく、アドバイザーグループを中心としたア

ドバイザー教員と在学学生スタッフと共同で運営する形式で実施された。企画として、ビデオクリップを用いた大学や近隣施設の紹介、大学生活についてのアドバイス等を行う「上級生から新入生へのメッセージ」と、近隣スポーツ施設での「レクリエーション」の2つのセッションが実施された。翌2004年度は新入生、在学学生からスタッフ希望者が50～60名となり、学生がほぼ主体的に運営する体制となった。このシステムはこれ以降10年以上にわたり、ほぼ同様の内容で先輩から後輩へと受け継がれている。

新入生セミナーの活動

1. 2014年度の新入生セミナーの概要

2014年度新入生セミナーのプログラムを表1に示す。大学・学部では3日間の新入生オリエンテーションのプログラムが組まれている。新入生セミナーは、第1日目にセッションⅠ「キャンパスツアー」、「大学紹介」が学内で実施された。

まず新入生には、セミナー開始時に「クリストページ」といわれるパンフレットが配布される。このパンフレットには、大学の概要、学生生活の留意点、近隣の店舗、施設紹介、サークル紹介、新入生セミナーのプログラム、グループ表などの内容が盛り込まれている。

「キャンパスツアー」は、新入生7～8名とスタッフ6～7名で構成されたチームに分かれ、スタッフの案内によって大学構内を周る。

このチームには毎年親しみやすい名称が工

夫されており、セッションⅡの運動会も同様のチームで活動する。ツアーコースの各ポイントには別のスタッフが配置されており、クイズや施設の説明などにより大学生活に必要な施設を楽しみながら理解できるような配慮がされている。

「大学紹介」では、体育館に新入生が全員集合し、動画やスライドなどを用いて、通学の留意点、学習方法、看護師・保健師・養護教諭とは、実習着の着用時の留意点、大学近隣の店舗や施設紹介、サークル活動等について説明される。説明用の動画は、クイズ形式や現地レポート、各サークルのPRなど新入生が楽しめるように工夫された内容になっている。司会進行も、新入生の緊張を緩和するよう和やかな雰囲気で行われた。

第3日目には、セッションⅡ「運動会」が実施された。新入生、スタッフは大学体育館に集合し、手配したバスに分乗して近隣の総合体育館へ移動する。開会式、準備体操のあと、キャンパスツアーと同じチームで、ドッジボールやしっぽ取り、輪くぐり、障害物リレーの競技を行う。優勝を目指してチームが一丸となり、競技や応援で盛り上がり、チーム間のコミュニケーションも自然に活発となっていく。閉会式では成績が発表され、記念撮影にて終了した。終了後はバスで大学に戻り、解散となった。運動会の進行のほか、バスの手配、弁当の手配、施設との交渉、会場準備、後片付けなど、当日の運営はすべて学生スタッフにより行われる。(図1～6)

表1 2014年度新入生セミナーオリエンテーションプログラムの内容

日程	大学、学部の新入生オリエンテーション	新入生セミナー
第1日目 4月2日(水)	学部長からの話 スケジュール説明 各委員会からのガイダンス * 学生委員会 * 学生サービスセンター * 電算センター * キリスト教センター * FD委員会 「薬物使用防止」・「生活・交通安全」・ 「学生相談室の利用」について	セッションⅠ(キャンパスツアー) 60分 大学構内 セッションⅠ(大学紹介) 80分 体育館
第2日目 4月4日(金)	教育課程、履修説明 アドバイザー教員の紹介 アドバイザー懇談 図書館の説明 履修登録	
第3日目 4月5日(土)		セッションⅡ(運動会) 8:50~16:00 浜北総合体育館グリーンアリーナ

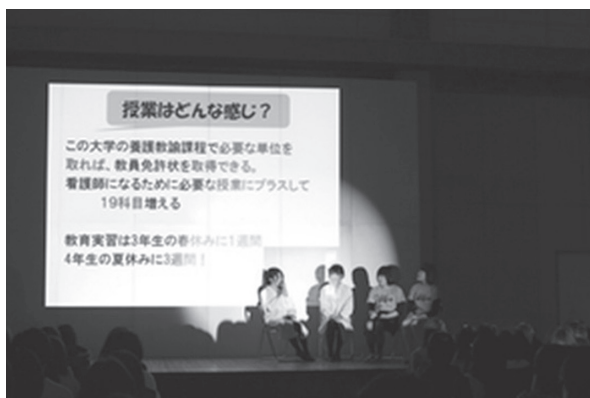


図1 セッションⅠ大学紹介の様子①



図2 セッションⅠ大学紹介の様子②



図3 在学生スタッフ



図4 セッションⅡ運動会の様子①



図5 セッションⅡ運動会の様子②



図6 運動会の在学学生スタッフと新入生

2. 新入生セミナーの学生組織と活動内容

在学学生スタッフは、各学年 50 名の総勢 150 名前後で構成される。スタッフは全員自主的な参加者であり、新入生セミナー実施後すぐに、新入生に対してスタッフの募集がされる。毎年 40～60 名程度の希望者があり、多少のメンバー交代はあるものの、参加者はスタッフとして 3 年間継続して活動している。

在学学生スタッフの組織は、全体の進行を取り

仕切る統括の学生を中心に、「大学紹介」30 名程度、「キャンパスツアー」30 名程度、「運動会」40 名程度、「クリストページ」20 名程度の 4 部門で構成されている（図7）。各部門のリーダーが、企画、年間スケジュールの決定、メンバーの役割調整などを行う。スタッフは 3 年間同じ部門を担当し、上級生から下級生に部門の活動内容、役割を継承している。

準備は前年度 4 月から 1 年間をかけて進め

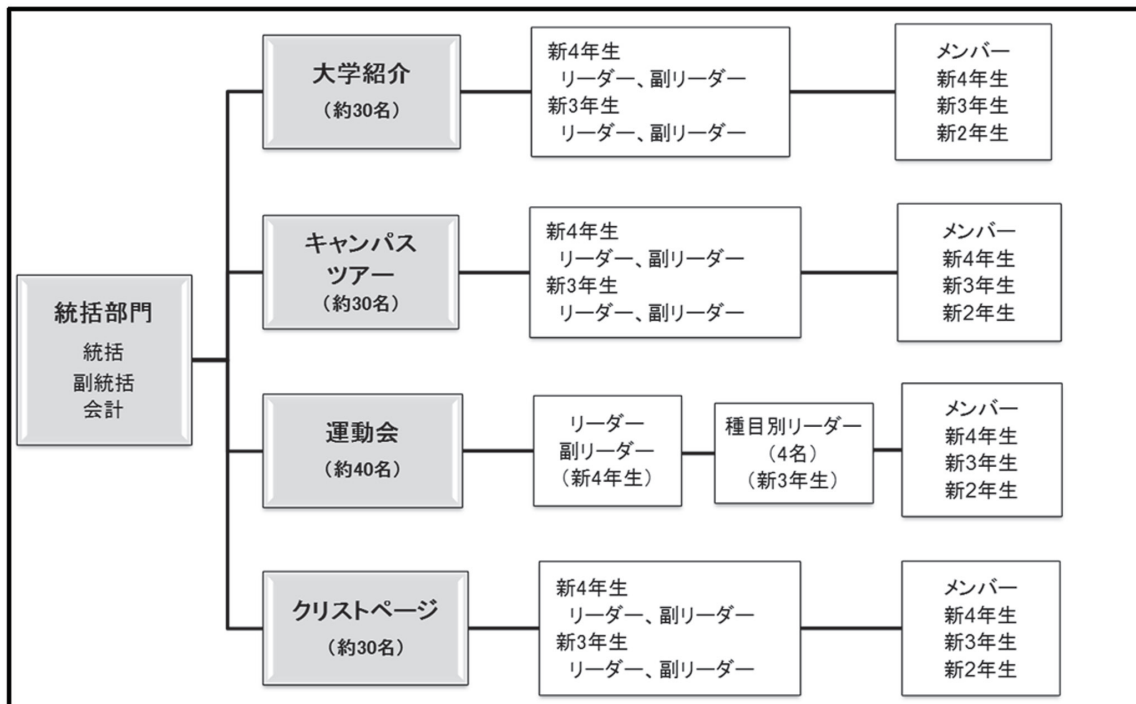


図7 2014 年度在学学生スタッフの組織

表2 在学生スタッフの活動時期とおもな内容

	統括、会計	大学紹介	キャンパス ツアー	運動会	クリスト ページ
2013年度	2014年度新セミ参加者募集				
4月	第1回全体会				
	企画書提出 活動計画立案				
5月	第2回全体会				
	予算案作成	活動計画立案	活動計画立案	活動計画立案	活動計画立案
6月	仮運動会準備	動画撮影編集 台本作成	ツアーコース検討	競技内容、 人数配置検討 物品準備 仮運動会準備	クリストページ 作成
				第3回全体会	
8月	仮運動会(運動会のリハーサル)				
		動画撮影編集 台本作成	ツアーコース検討	仮運動会運営	クリストページ 作成
3月	第4回全体会				
	第5回全体会				
	最終リハーサル				クリストページ 作成
2014年度	新入生セミナー実施				
4月					
5月	評価、次年度への引き継ぎ				

られるが、リーダーとなる新4年生は3年次秋 Semesterから実習期間となるため、ほとんどの準備は前年度春 Semester、夏季休暇までに終え、3月に最終調整を行っている。(表2)

教員からのサポートは本学部学生委員会が担っている。新入生セミナー担当教員が中心となり、主に進捗状況の把握、予算案の確認、活動のための環境調整、大学事務との連絡調整などを行う。学生の活動を支援する役割であるため、運営について干渉はしないよう心がけているが、長期にわたる活動のため、学生だけでは解決できない状況が出た場合や、人間関係のトラブルなど心理的な不満が出た際などには、随時教員が学生の中に入ったり、担当学生との個別面談などを通じて声を聴くようにしている。在学生スタッフの組織は各部門で以下の活動を行っている。

1) 統括部門

統括部門は、新4年生の統括、副統括が代表となり、新3、2年生の学年ごとに統括、副統括が配置されている。統括は、全体のリーダーとして、1年間の計画立案、全体会の運営、メンバー構成、各部門の進捗状況の把握、仮運動会の開催準備、運動会使用施設との連絡調整、バスや弁当等の手配、スケジュール調整、メンバー間の人間関係の調整、教員および事務との連絡調整等、運営全般を行う。副統括は、統括とともに運営に関わるほか、会計を担当し、大学への予算申請、会計管理を行う。

2) 大学紹介部門

新入生に紹介する内容、方法を決定し、役割分担、台本作成、上映するスライドや動画の撮影、編集を行う。また、セミナーで使用する名札の作成やチーム別のプラカードの準備など

も行う。

3) キャンパスツアー部門

ツアーコースを選定し、説明内容を決定する。リハーサルを行い、雨天時なども想定したコースを検討する。

4) 運動会部門

実施施設の選定、競技項目・方法の検討、人員配置および役割分担、物品の準備を行う。

当日運動会では、新入生とスタッフを合わせた約300名がさまざまな競技に参加する。そのため円滑な進行や安全面の配慮が重要となる。運動会担当者だけでなく、スタッフ全員が当日の動き、留意点を把握しておく必要があることから、毎年8～9月に大学体育館にて在学生スタッフが全員参加して「仮運動会」といわれる運動会のリハーサルを実施している。運動会担当者が中心となって、仮運動会が進められ、スタッフに競技を実施してもらい、当日の動きをスタッフ全員で共有するとともに、進行や安全面に問題がないかを確認する。

5) クリストページ部門

新入生セミナーのパンフレット「クリストページ」を作成する。クリストは大学名の一部からとったものである。「クリストページ」

は、セミナーのスケジュール、チーム表だけでなく、大学紹介、キャンパスツアー、運動会の内容、方法、ルール等について詳細に記載されている。各部門から提出された資料を編集、印刷する。

新入生セミナーの成果

1. 新入生に対する成果

2014年度新入生セミナー実施後、新入生156名（編入生1名を含む）にセミナーの感想を自由記述にてたずねた（表3）。回答を意味内容によりカテゴリ別に分類した結果、314コード、10カテゴリが抽出された。新入生セミナーで得た内容をカテゴリで分類すると「先輩との交流」（69.0%）、「同級生との交流」（29.0%）、「先輩の姿」（29.0%）、「大学環境、サークルに関する知識」（27.1%）、「思い出づくり」（16.8%）、「新入生セミナースタッフへの意欲」（11.6%）、「不安や緊張の緩和」（10.3%）、「大学生活への意欲向上」（7.1%）、「高校との違い」（1.9%）、「教員との交流」（0.6%）の内訳であった。

佐久田（2008）は、新入生オリエンテーション成果尺度の下位尺度として、【一回生との親

表3 2014年度新入生セミナーについての新入生得た内容

カテゴリ	件数	
先輩との交流	107	69.0%
同級生との交流	45	29.0%
先輩の姿	45	29.0%
大学環境、サークルに関する知識	42	27.1%
思い出づくり	26	16.8%
新入生セミナースタッフへの意欲	18	11.6%
不安や緊張の緩和	16	10.3%
大学生活への意欲向上	11	7.1%
高校との違い	3	1.9%
教員との交流	1	0.6%
合計	314	

密化】【上回生との親密化】【教員との親密化】【居心地の良さ】【帰属感高揚】【情報獲得】【親友獲得】【宿泊肯定】【将来展望獲得】の9因子を抽出し、各下位尺度得点では【一回生との親密化】【帰属感高揚】【親友獲得】の3つが高かったことを報告している。今回2014年度の本学部新入生の場合、同級生との親密化よりも「先輩との交流」や「先輩の姿」など先輩についての記述が最も多くなっていた。新入生は、先輩との交流を通して、スタッフとして活躍する姿や後輩に優しく接する姿をみて、「大学生」という役割モデルを認識していると考えられる。そして、新入生としてあたたかく迎えられた経験が、自分も先輩のようにスタッフとして関わりたいという意欲となり、在学生スタッフに参加することへの動機づけとなると考えられる。

在学生スタッフへの自発的な参加は、意欲的な活動へとつながり、その姿が新入生へと伝承されるという正のスパイラルによって、本学部の新入生セミナーは継承、発展したのではないかと推察する。

2. 在学生スタッフに対する成果

本学部新入生セミナーにおける在学生スタッフへの効果としては、主体的活動による達成感や自己成長の実感、役割遂行による責任感、リーダーシップの獲得、縦と横のつながりが挙げられる。実際の活動場面において、授業では目立たない学生が役割を与えられることによってリーダーシップを発揮する姿や、目立たない仕事でも自分の役割として確実に遂行する学生の姿を目にする。こうした課外活動では授業ではわからない学生の一面や成長を教員が知る機会にもなる。また、協力して1つのことをやり遂げる過程において、うまくいかないことを乗り越えながら、先輩後輩の縦の交流、同級生と

の横の交流が深まり、社会生活に必要な人間関係を構築する力が育成されていくのではないかと考える。青山(2010)は学生参画型の新入生セミナーにおける学生スタッフの成果として、①自己成長に対する喜び、②活動意欲の高まり、③仲間への感謝を報告しており、本学部においても同様の効果が期待できる。

また、他にも自分たちの学部を創造するという連帯感や大学および学部に対する帰属意識の醸成となっていることが推察されるが、在学生スタッフに対する効果については評価していないため、今後検証が必要である。

近年多くの大学で初年次教育、学習支援、メンタルヘルスサポートなどの活動にピア・サポートが取り入れられている。ピア・サポートとは、「援助のための訓練を受けた同年代の仲間が、問題に直面した仲間を支援する活動」(Core, 1999 バーン亀山他訳, 2002)と定義され、学生の能動的態度やコミュニケーション能力の向上、自律性の育成などに効果的であるといわれる。青山(2010)は学生参画による新入生セミナーのねらいの一つにピア・サポート活動を挙げており、本学部の新入生セミナーの取り組みもピア・サポート活動といえる。今後はピア・サポートの視点からも、新入生セミナーの活動を深めることも重要であると考えられる。

おわりに

本学においてはこれまで10年以上継承されている学生主体の組織的な活動が今後も継続、発展していけるよう、教員や大学が学生の力を信じ、より充実した活動ができるようサポートすることが大切である。在学生スタッフの意欲的な活動が新入生のモデルとなり、スタッフへの自主的な参加へとつながるといふ正のスパイ

ラルを継続することにより、この営みが本学部の文化として醸成されていくことを期待したい。

今後の課題は、新入生セミナーについての評価が十分為されていないため、新入生や在学生スタッフに対する効果を量的、質的な視点から検証する必要がある。また、大学・学部が運営する新入生オリエンテーションにおける新入生セミナーの位置づけを明確にし、セミナーの目的を再確認すること、学生支援活動として、アドバイザー教員制度との連動について検討していく必要がある。

文献

青野篤子・橋本優花里・山崎理央（2013）：大学におけるピア・サポート活動の新たな展開—学生の横の関係と縦の関係をつなぐ試み—，福山大学人間文化学部紀要，13，19-42.

青山巧他（2010）：新入生セミナーにおける学

生の活用と成果—ピア・サポート活動と体験学修の高まり—，島根大学教育臨床総合研究 9，1-7.

西村昭徳・石崎一記（2008）：リレーションを重視したオリエンテーションが新入生の大学生活適応感に及ぼす影響，東京成徳大学人文学部研究紀要，15，51-60.

奥田亮他（2003）：新入生オリエンテーションに関する研究（2）．オリエンテーション成果が大学生活充実度に及ぼす影響，日本心理学会第70回大会発表論文集，1254.

佐久田裕子他（2008）：新入生オリエンテーションにおける獲得感と大学生活満足感との関連性について（2）—複数学科のデータに基づく分析—，大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要 7，47-56.

八城薫他（2003）：新入生オリエンテーションプログラムの作成とその効果—新入生の円滑な大学適応を目指して—，日本心理学会第77回大会発表論文集，1103.